

印旛沼流域水循環健全化会議

第30回委員会

議事要旨

(1) 会議概要

日 時：2022(R4)年1月17日（月）13:30～15:00

場 所：PCKK 会議室（1613）、WEB 会議

出席者：次頁の通り

(2) 議事

- (1) 第3期行動計画の健全化会議の体制第3期における部会での取組（案）
- (2) 規約の改定
- (3) その他

(3) 配布資料

- ・ 資料1：議事次第
- ・ 資料2：第3期における健全化会議の体制について
- ・ 資料3：新委員会及び各部会の委員名簿（案）
- ・ 資料4：印旛沼流域水循環健全化会議規約 新旧対象表
- ・ 資料4 - 2：印旛沼流域水循環健全化会議規約（規約変更案）
- ・ 資料5：第2期行動計画目標達成状況と取組の実施状況（案）
- ・ 資料6：前回委員会における意見と対応方針
- ・ 資料7：メッセージ記入シート
- ・ 資料8：【参考資料】健全化会議のあゆみ

表 第3期行動計画作成に関する委員会 出席者（健全化委員）

	所属・役職	名前	出欠	備考
委員長	東京大学 名誉教授	虫明 功臣	○	会場
委員 (学識者)	中央大学 名誉教授	山田 正	○	会場
	放送大学客員 教授	中村 俊彦	○	WEB
	東京情報大学 教授	原 慶太郎	○	WEB
	岩手大学 教授	飯田 俊彰	(欠席)	
	千葉大学 教授	近藤 昭彦	○	WEB
	国立研究開発法人 土木研究所 上席研究員	伊藤 弘之	(欠席)	
	元 公益社団法人 印旛沼環境基金 上席研究員	本橋 敬之助	(欠席)	
	元 県環境研究センター 水質環境研究室長	小倉 久子	○	WEB
	東京理科大学 教授	二瓶 泰雄	○	WEB
	元 県 環境研究センター長	千代 慎一	(欠席)	
	一般社団法人 JC 総研 協同組合研究部 客員研究員	中野 隆三	○	WEB
	東邦大学 教授	長谷川 雅美	(欠席)	
	千葉黎明高等学校 非常勤講師	古嶋 美文	(欠席)	
	元 独立行政法人 国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター長	高村 典子	(欠席)	
国土交通省 国土技術政策総合研究所 河川研究部 水環境研究官	福濱 方哉	(欠席)		
委員 (水利用)	印旛沼土地改良区 理事長	長谷川 邦彦	(欠席)	
	印旛沼漁業協同組合長	小川 佳男	(欠席)	
委員 (市民団体)	佐倉印旛沼ネットワークの会 代表幹事	小島 以久男	(欠席)	
	谷当グリーンクラブ 代表	金親 博榮	(欠席)	
	環境パートナーシップちば アドバイザー	横山 清美	(欠席)	
	NPO法人 印旛沼広域環境研究会 理事	高橋 修	○	WEB
委員 (行政関係)	国土交通省関東地方整備局利根川下流河川事務所長		○	WEB
	農林水産省関東農政局印旛沼二期農業水利事務所長		○	WEB
	独立行政法人水資源機構千葉用水総合管理所長		○	WEB
	千葉県 総合企画部 次長		(欠席)	
	千葉県 環境生活部 次長		○	WEB
	千葉県 農林水産部 次長		○	WEB
	千葉県 農林水産部 水産局長		○	WEB
	千葉県 県土整備部 次長		○	WEB
	千葉県 県土整備部 次長		(欠席)	
	千葉県 企業局水道部 次長		○	WEB
	千葉県 企業局工業用水部 次長		○	WEB

所属・役職		名前	出欠	備考
	千葉県 教育庁教育振興部 次長		○	WEB
	千葉市 環境局環境保全部長		(欠席)	
	船橋市 建設局下水道部長		○	WEB
	成田市 土木部長		○	WEB
	佐倉市 土木部長		○	WEB
	八千代市 都市整備部長		(欠席)	
	鎌ヶ谷市 都市建設部長		○	WEB
	四街道市 都市部長		(欠席)	
	八街市 経済環境部長		(欠席)	
	印西市 都市建設部長		(欠席)	
	白井市 市民環境経済部長		○	WEB
	富里市 都市建設部長		○	WEB
	酒々井町 まちづくり課長		○	WEB
	栄町 建設課長		(欠席)	
	長門川水道企業団水道課長		○	WEB
オブザーバー	国土交通省水管理・国土保全局河川環境課河川環境保全調整官		○	WEB
	国土交通省関東地方整備局河川部河川環境課長		○	WEB
	国土交通省関東地方整備局河川部地域河川課長		○	WEB
	千葉県 県土整備部河川整備課長		(欠席)	
	千葉県 千葉土木事務所長		○	WEB
	千葉県 葛南土木事務所長		(欠席)	
	千葉県 東葛飾土木事務所長		(欠席)	
	千葉県 印旛土木事務所長		(欠席)	
	千葉県 成田土木事務所長		○	WEB
	千葉県 北千葉道路建設事務所長		○	WEB
事務局	県 環境生活部 水質保全課 湖沼浄化対策班 主査	木持 晃代	○	会場
	県 県土整備部 河川環境課長	角田 秀樹	○	会場
	県 県土整備部 河川環境副課長	椿原 保彦	○	会場
	県 県土整備部 河川環境課 企画班長	田畑 啓介	○	会場
	県 県土整備部 河川環境課 企画班 副主幹	出井 健次	○	会場
	パシフィックコンサルタンツ株式会社	佐竹、上原、東海 林、熊懐、小村	○	会場

表 第3期行動計画作成に関する委員会 出席者（新委員）

所属・役職		名前	出欠	備考
委員長	中央大学 名誉教授	山田 正	○	会場
顧問	東京大学 名誉教授	虫明 功臣	○	会場
委員 (学識者)	岩手大学 教授	飯田 俊彰	(欠席)	
	千葉大学 教授	近藤 昭彦	○	WEB
	元 独立行政法人 国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター長	高村 典子	(欠席)	
	国立研究開発法人 国立環境研究所 気候変動適応センター室長	西廣 淳	○	WEB
	東京理科大学 教授	二瓶 泰雄	○	WEB
	国土交通省 国土技術政策総合研究所 河川研究部 水環境研究官	服部 敦	○	WEB
	水の回廊社会実験 代表	古川 巖水	○	WEB
	千葉黎明高等学校 非常勤講師	古嶋 美文	(欠席)	
	公益財団法人 印旛沼環境基金 主任研究員	日浦 博昭	(欠席)	
	国立研究開発法人 土木研究所 水環境研究グループ 上席研究員	山下 洋正	○	WEB
委員 (水利用)	印旛沼土地改良区 理事長	長谷川 邦彦	(欠席)	
	印旛沼漁業協同組合長	小川 佳男	(欠席)	
委員 (市民団体)	特定非営利活動法人 印旛沼広域環境研究会 理事	高橋 修	○	WEB
	環境パートナーシップちば 代表理事	桑波田 和子	○	WEB
	印旛沼探検隊 代表	新谷 義男	○	WEB

印旛沼流域水循環健全化会議 第30回委員会 状況

<会場の様子>



<オンライン会議の様子>

Zoom ミーティング

参加者の検索
事 事務局(PCKK小村)
虫 虫明委員長、山田委員、事...
佐 佐藤鉄工 古川
北 北千葉道路建設事務所
I internet-common
U user仲野隆三
印 印旛沼探検隊 新谷 (しんや)
河 河川環境課 羽澤
河 河川整備課 仲田
鎌 鎌ヶ谷市道路河川整備課 小川
関 関東地整 河川環境課 橋本

(4) 議事要旨

1) 開会

【挨拶：角田河川環境課長】

- ・本日、議論していただきたいことは、健全化会議のアクションプランである第3期行動計画を推進する体制とその規約の改正についてです。次年度から第3期の取組を本格的に進めるわけですが、近年の水害を受けて大きく動いている流域治水、水循環の一環である豪雨・洪水を、水循環計画の枠組みの中で実施するのが効果的かつ効率的であると考えています。
- ・そこで、今後の取組体制は、水環境の保全と治水等々の各施策が密接に関わっていることから、その相乗効果が最大限得られるように3部会の体制としたいと考えています。
- ・第3期では、委員間、委員と事務局間の情報共有や連携を一層密にし、成果を出せるように、引き続き御協力のほどよろしく願いいたします。

【挨拶：虫明委員長】

- ・第3期計画の策定は、新しい体制で作成してほしいということを経年2年以上前から申し上げていました。事務局は、災害やコロナ等で忙しい中で非常に一生懸命やっただき、そして、新しい体制をつくる案ができました。どうぞよろしく願いいたします。

2) 議事

A) 第3期行動計画の健全化会議の体制と規約の改正

河川環境課から、配付資料2～4-2について説明

■質疑応答・コメント

- ・【新谷委員】スライドの19について、推進対策を抽出する項目が2つあるが、丸がついているところはどのような関連になっているのか、また、優先順位があるのか。例えば、市民活動との連携・協働というのは、まず連携ができて後に専門的な知見がある方々が入ってくるのか、それとも、専門的な知見がある方々が牽引役となって連携を進めていくのか、教えていただきたい。
- 【事務局】推進対策は、事務局が組織的にバックアップすることを視野に入れるべき対策郡がなにかを考えながら選定した。流域治水の取組は多様な部署が連携しないと進められないため、連携という表現を用いたが、その他は連携が不要である考えたものではない。
- 【新谷委員】今後、部会の中で詰めていく内容だと理解すればよいか。
- 【虫明委員長】案であるため、検討していただきたい。
- ・【山田委員】第3期での健全化会議の体制は、3部会が互いに関係しているというところがポイントである。水に関する活動を全部同時に見ることが流域治水の概念でもある。私自身2つの部会に名前が出ているが、3つの部会に入れていただきたい。同様に、3つの部会全てに関わる委員の先生方もいるため、再度委員の先生方にアンケートを取り、オブザーバー参加したい部会が無いかなど伺ってはどうか。部会は、最低限委員の方に出てもらおうが、興味があればオブザーバーの方も参加可能というような形式にしてもらいたい。
- 【事務局】我々も各部会の連携強化を意識している。
- 【虫明委員長】部会の委員は決めるが、関係者の参加や全委員への情報公開等の形式を考えてみてはどうか。
- ・【山田委員】委員会は必要に応じてアドバイザーから意見を聞くことができる、と規約にあるため、是非またがって部会活動に参画できるようにしていただきたい。
- 【虫明委員長】委員がどの部会にもオブザーバー参加できるという表現を規約に加える必要がある。

→【事務局】第6条の第5項に、必要に応じてアドバイザーから意見を聞くことができ、共通意識をつくる旨を追記する。

山田委員を、水環境部会の顧問とする。

・【虫明委員長】第3期行動計画の健全化会議の体制と規約の改正について、承認いただいた。

B) 今後のスケジュール

河川環境課から、配付資料2について説明

■質疑応答・コメント

・意見なし

C) その他

■質疑応答・コメント

・【虫明委員長】これまで委員として御尽力いただいた中村委員、原委員、小倉委員に最後に何かお言葉をいただきたい。

====

【中村委員】

- ・千葉市の水環境保全計画の改定作業実施されているところではあるが、水環境保全計画と生物多様性国家戦略を一緒につくろうということで現在作成作業中である。
- ・印旛沼の特徴の1つとして、谷津田や里山等の水源域が多いことが挙げられるが、現在、その水源域での耕作放棄が進み、ともすれば埋め立てられてしまう状況である。
- ・千葉市の里山も印旛沼の水源域でもあり、水源地の保全をぜひ健全化会議と一緒に検討をしていきたい。
- ・印旛沼の水循環が健全になることを誰もが実感できるような形にしていただくことは、千葉市の水環境や生物多様性の保全にも直結するため、今後も流域の各市町村等と一緒に活動に取り組んでいきたい。
- ・また、健全化会議でとられた多くのデータを、報告書という形で引用・活用できるように公表していただきたい。

【原委員】

- ・流域治水が強く打ち出されたことから、谷津から流域へ、ランドスケープスケールでのいろいろな取組がこれから始まるのだろうと期待している。
- ・佐倉の里山や谷津田等の保全活動をしているグループがあるため、まずその人たちと、印旛沼や流域に関わる取組を進めていきたいと思っている。北総地域にとって里山や谷津田等は大きな宝だと思うため、引き続き次の世代に残せるように、委員会としていろいろ取り組んでいただければと思う。

【小倉委員】

- ・今後は、市民として外側から健全化を応援していきたいと思う。

【虫明委員長】

- ・流域水循環健全化とは、水循環に視点を当てることで、水循環と人間あるいは生態系と環境との関係など全体が見える。
- ・流域治水とは、洪水制御だけでなく、利水や環境も含んでいる。しかし、現在の流域治水は国土強靱化の予算からきており、治水に特化しているため狭い範囲となっている。
- ・流域マネジメントという用語としては固くお役所的な感じがするので、むしろ「流域経営」という言い方が伝わり安くイメージがよくなるのではないだろうか。
- ・流域治水が始まったが、これはまさに気候変動による水災害の激甚化の影響であり、人々の共感を得られ安くなっている。これからは河川管理者だけでなく、皆で協力していく形ができ、素晴らしいことである。
- ・印旛沼は一步先じて流域治水に取り組んできたということを十分意識していただきたい。
- ・これからも古い話で役に立つことがあれば皆さんにぜひ伝えたいと思う。
- ・2001年に健全化が始まり、第1期行動計画ができて10年が経過したが、その間に流域という意識が定着してきた。そして、流域における市民活動は新しい広がりが進んでおり、ポテンシャルは上がってきている。
- ・新しい体制の中で、是非流域経営に向けて日本のモデルになっていただければと思う。

【山田委員】

- ・これまでの虫明委員長の功績は非常に大きく、我々は、流域や水循環という概念を受け止め、発展させていかなければならない。
- ・虫明委員長、長年にわたりありがとうございました。

—以上—